

Thailand Tao SORA

web magazine 2016.apr. vol.70

タイ・タオ島の海は、お魚たちが重奏する。

MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

タイのタオ島は、タイの東側シャム湾に浮かぶ島。空路バンコク経由でサムイ島まで行き、その後は大型フェリーで2時間揺られるとタオ島に到着する。昔から世界中のバックパッカーが集まる自由な雰囲気を持つ島であり、同じく好奇心が旺盛なダイバーも集う。生態系に偏りのある海中世界は、いくつもの魚群が重なり、豊穡の世界を作り出す。そして、可愛いマクロの生き物と、時折あの現存魚類最大のジンベイザメが高い確率で出現する。様々な生き物が海中を彩るタオ島の海へ、いざ!

驚き Surprise

幸運は突然やってきた。

「自然体のままで、何も考えないように行こう」そう思いながら、セイルロックの1デイトリップへ。そんなことを思っていること自体、本当はあの生き物に会いたいと願っているのかも知れない。または、もし会えなかったとしても、残念な気持ちにならないようにと予防。そんな風にきつとみなさんいろんな気持ちを持って、パンザイ号に乗船し、2時間洋上を進んでいった。ポイントに到着して一番にエントリー。人工物に群れているキンセンフエダイを撮影していると頭上にいる大村健さんが激しく鈴をならす。一向に鳴り止む素振りがないので、「これは来たな」と、キンセンフエダイの群れをかき分けて少し浮上すると、大きなオタマジャクシのような黒い影が、こちらに向かって泳いできた。少しは期待していたものの、エントリーして数分後の出会い。そして、まだ海中には誰もいない。そんな贅沢な時間を過ごしつつ、ゆっくりとジンベイザメに寄り添いながら撮影。他のゲストが来るまでに逃がさないように、気をつけながら時間を過ごす。ジンベイザメがセイルロックの周囲を泳ぐ。セイルロックに棲む様々なお魚たちは、ジンベイザメが通りすぎると少し付いて行こうとする。その様子がとても美しい。ジンベイザメだけではなく、ジンベイザメが泳ぐ周囲にはいつもお魚がいる。そんな風景がとても素敵で、またある意味タオ島ならではの風景なのかもしれない。根から離れては反転して、また私たちの前までやってきたり、口を開けて少し捕食を試みたり。いろんな様子、表情を見せながら、午後過ぎまで、セイルロックにジンベイザメは居た。同じ船に乗船したみんなは1匹のジンベイザメのお陰で忘れられない特別な1日を得た。ランチタイムに美人ガイドのエリちゃんが、「セイルロックでジンベイザメが出るときのランチは、必ずトンカツですよね？」と笑って教えてくれた。



Thailand TAO

タイ・タオ島

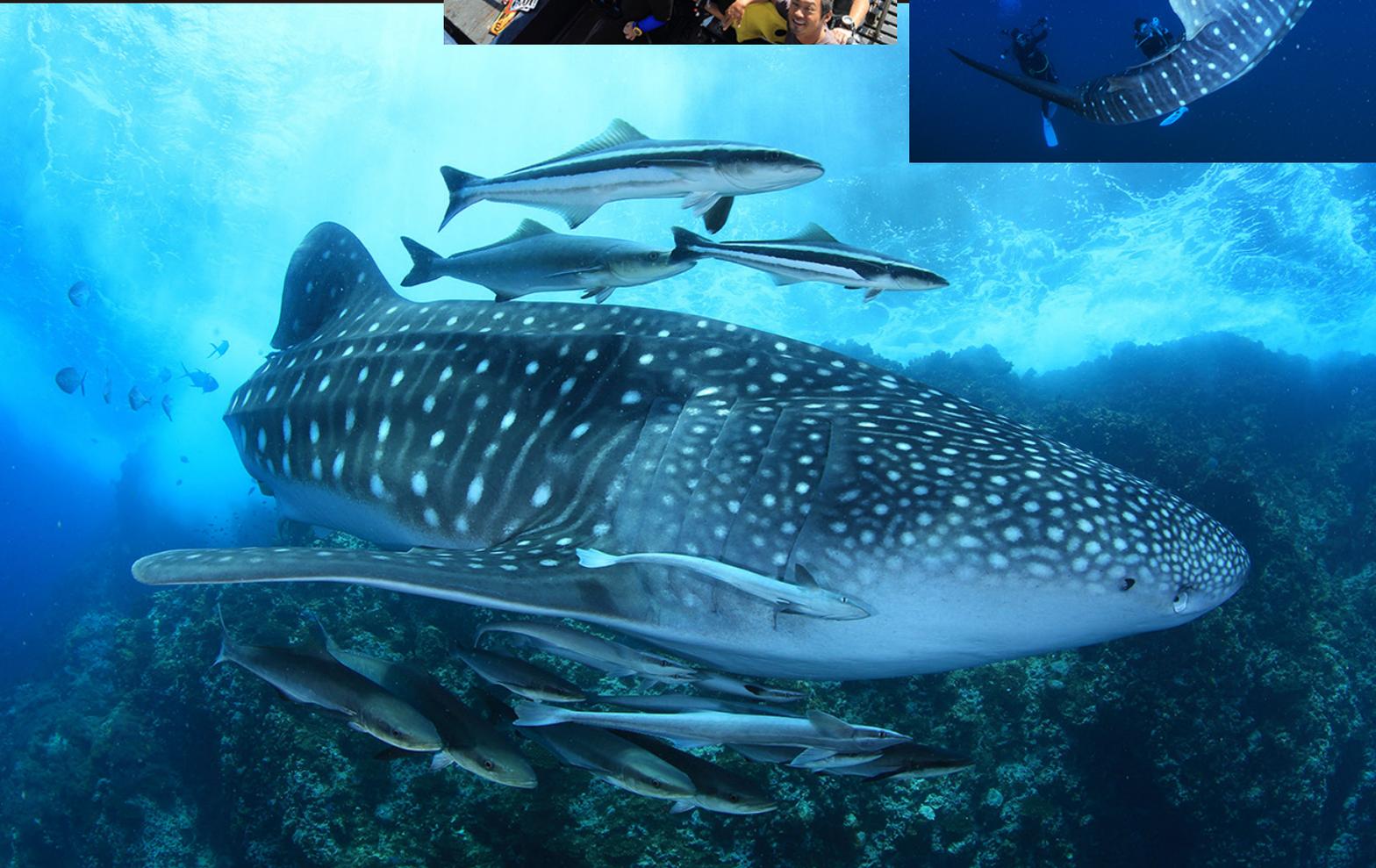
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



驚き
Surprise



Thailand
Tao
タイ・タオ島



もちろん、毎回出会えるわけではないのは分かっているけど、
1匹のジンベイザメとの出会いが、私たちに大きなHAPPYを与えてくれた。
ジンベイザメってやっぱりすごい!



Thailand
Tao
タイ・タオ島



お魚たちの大きな群れの 二重奏、三重奏、多重奏。

何国にも股がるマレー半島とインドシナ半島に挟まれた閉鎖海域であるシャム湾。大昔、スンダ大陸だったが氷河期の氷が解け、海底に広大な平らな土地が出来た。最大水深80mで、他の海との繋がりが希薄なために独特の偏った生態系を持つ。また閉じ込めた海域に、巨大河川が流れ込むと塩分の濃度が低い層ができる。そのような特異な環境で生きる生物は偏りができ、特定の魚種が多く繁栄する。そのために、魚種の豊富さよりも、各種の魚群の大きさに驚く。タオの海は、お魚たちの大きな群れの二重奏、三重奏、多重奏。それがこの海の最大の魅力だと、今回再確認した。



えっ! もっと魚影の濃い場所へ?

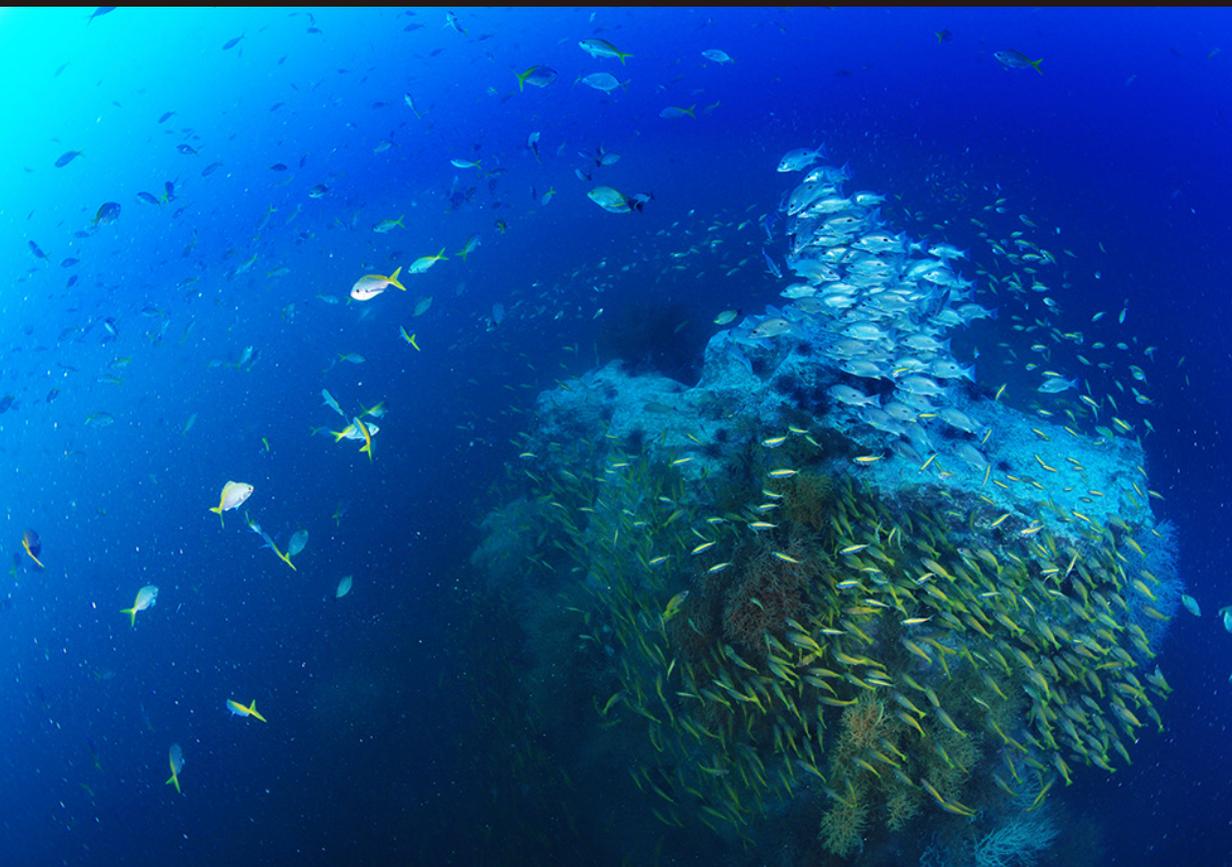
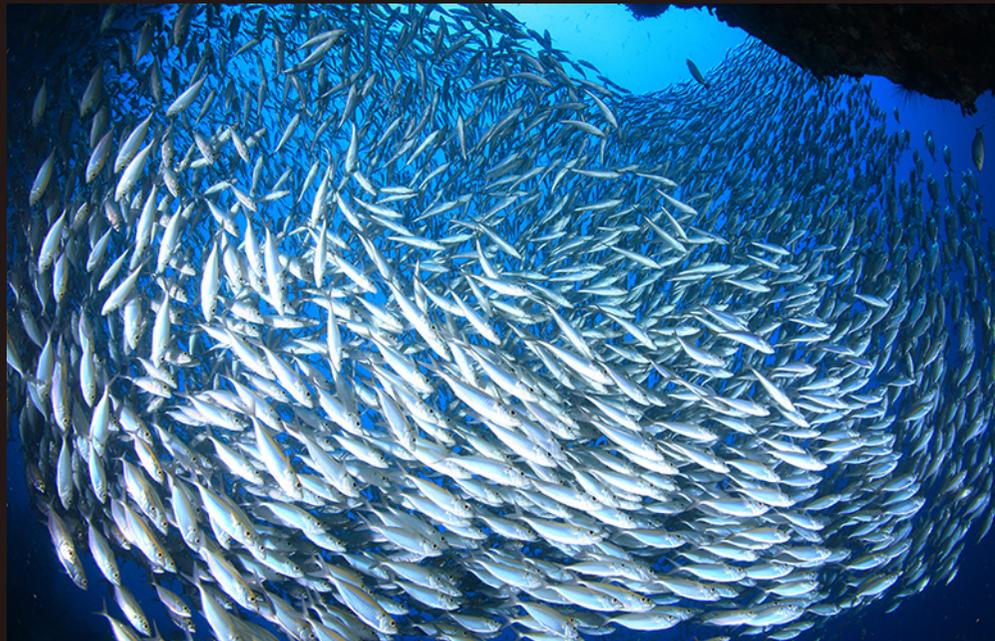
大物ポイント・セイルロックに潜り込んで、最初に目に飛び来んできたのが、キンセンフエダイとクロホシダイの群れ。海底に沈むブロックの周囲に二重奏になっていた。種類の異なるお魚が巨大な惑星のように一体になっている。そして、根元に泳いでいくと中層にツバメウオの群れが見える。進めば進むほど、数が増え、視界を埋め尽くすほどの数が泳いでいる。その下にバラクーダ、また横にはユメウメイロの群れがいる。どんどんと現れるお魚を撮影していると、ガイドの大村健さんがスレートに「もっと魚影の濃い場所に行きましょう!」と書いていた。「え?」ここではないの? とダイビングウォッチを見るとダイブタイムは20分だった。そして、健さんに着いて、潮当たりの良い場所へ少し水深を落としていく。すると、壁沿いには無数のスズメダイが群れや小魚の群れ、それを狙ってアジなどが飛び込んでくる。水深20mほどにクリーニングステーションがあり、そこでは、野球のバットのようなバラクーダが何匹もクリーニングを受けている。見上げる視野の中に何種類もの魚種が交わり、存在している。これがタオ島の海。何度もそう思いながら、撮影を続けた。





もうひとつの大物ポイント・ チュンポンピナクル

タオ島のポイントの中でも、ジンベイザメが出現する可能性が高いチュンポンピナクル。4年ほど前にも、このポイントでジンベイザメが大当たりした、忘れられない思い出がある。今回もその期待を胸にエントリー。水深25mくらいまでいくと、キンセンフエダイが絨毯のように広がっていて、サーモクラインのせいかな、水深30mほどの世界が少しもやがかかっているように見える。これがまた面白い。まるで海の中ではないような幻想的な世界が広がっているように思える。少しもやがかかった世界と、その上に広がる青い世界と、お魚たちの群れ。そして少し水深を上げて、シャベロンバラクーダの群れとアジの群れに囲まれる。山脈のような水中景観の中に無数のお魚がうごめいている。





ハゼ天国のツインズ&ラムティエンベイ。

Thailand
Tao
タイ・タオ島

真っ白い砂地が広がるツインズ。よく見るとそこはハゼの砂地で、全然物怖じしないハゼたちが、私たちダイバーとあり得ないような距離での出会いを約束してくれる。ハゼと言えばダイバーが一度は好きに(?)、もしくは憧れるお魚。大きなカメラであれ、小さなカメラであれ、カメラを持ったダイバーは、巣穴に入らないようにジリジリとにじり寄りながらハゼを撮影する。それができれば、もう立派なフォトダイバーになれた感じがする(笑)。この水底で会えるのは、人気の黄色いギンガハゼと、黒いメタリックシュリンプゴビーなど。これまた数が多く、一人一匹どころでない。気がつく周囲にウヨウヨという。だから逃げられても安心…(苦笑)。今回は面白いシーンを撮影できた。迷いレッドマージンシュリンプゴビーがギンガハゼやタリックシュリンプゴビーの巣穴に入ろうとするけど、元の巣穴の主が怒って威嚇する。その様子がとても可愛くまるで彼らの会話が聞こえてくるような素敵な1ダイブとなった。また、同じ島の東側にあるラムティエンベイも素敵だった。水底の構成バリエーションがあるので、オレンジリーフゴビー、ゴルゴニアンシュリンプ、トウアカクマノミ、ソリハシコモンエビ、ハタタテギンポのチビなどご対面。そして最後は、ミツバモチノウオの求愛&産卵。ソラスズメダイの婚姻色なども見ることができた。



カラフルな海の一部に恋をする。

マクロネタで、これは外せないというのが、「ホワイトロック」の浅瀬にあるイバラカンザシの群棲と、そこにちよこんと乗るタテジマヘビギンボ。インサイドリーフのポイントは、どこもイバラカンザシがたくさん群棲している。その様子はとてもカラフルで、あまり色がないように映るタオの海だが、良くみれば、イバラカンザシの存在が他にないタオ独特の色の世界を作り上げている。ガイドの健さんの案内で、根の上にぎゅっと群棲したイバラカンザシの群棲に行く。そこで待っていると何匹かのタテジマヘビギンボがお気に入りのイバラカンザシの上に乗る。色とりどりのお花畑のような中、タテジマヘビギンボのキュート顔がこちらを眺める。きっとタオ島の海でしか見れない景色なんだろうなあ、と思いながら、ファインダーを覗いて幸せな気分になっていた。



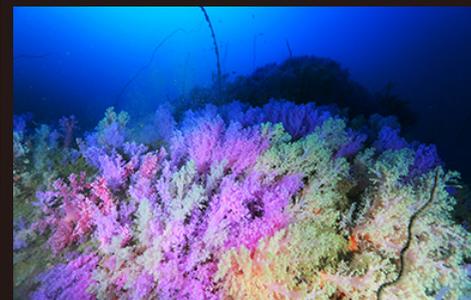
Rロマンス Romance

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



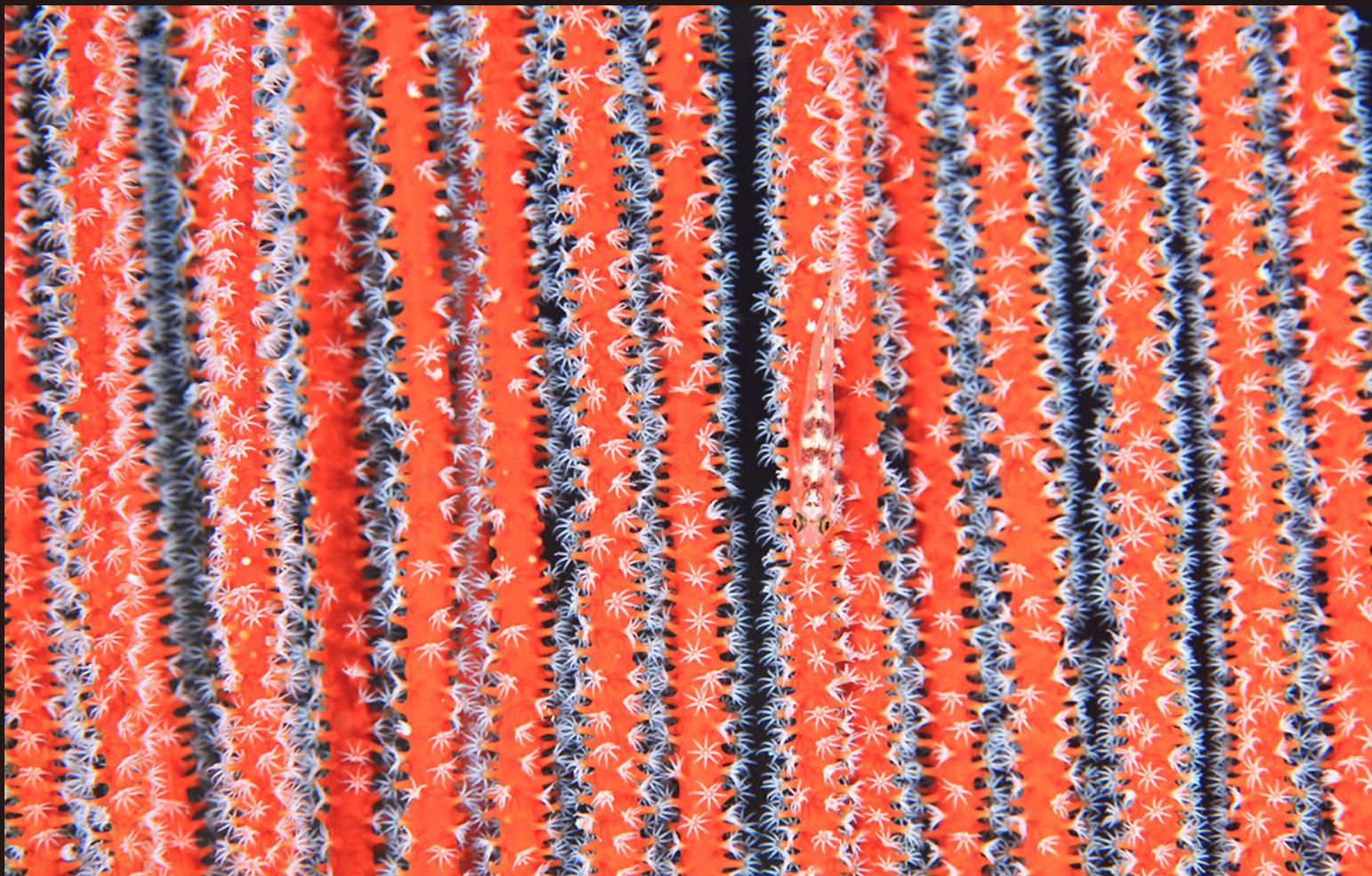
Thailand TAO

タイ・タオ島

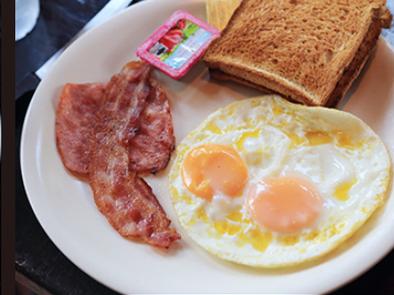


もうひとつ恋する景色を見つけた ヒンウォンピナクル。

タオ島で一番華やかなポイント・ヒンウォンピナクル。少し深い水深に、見た目は青いが撮影するとピンク色のソフトコーラルの群棲がある。そこにツキチョウチョウウオなどが現れる。見た目は美しいが撮影すると残念ながら、その美しさを表現するのが難しい…。だからより気になってしまう。また少し水深を上げた場所には、これまた珍しいハーブコーラルの群棲がある。まるで海のオーロラのような姿をしているが、これまた撮影するのが難しい。のハーブコーラルにガラスハゼを見つけた。和的なデザインに心惹かれた。



Rロマンス Romance



Thailand Tao タイ・タオ島



そして、大本命のビッグブルー・ 日本人専用クラブハウス・チャバが完成。

ビッグブルーはタオ島の老舗で、経験豊富な日本人スタッフがたくさん揃う。2014年の夏に新しくクラブハウスをリニューアルオープン。ただのショップではなく、皆が集い、情報を交換し、笑い合い、そこを拠点にタオ島を満喫できるような空間を演出。もともとバックパッカーなどの旅人や、タオの海に興味を持ったダイバーに、ダイビングはもちろんタオ島の時間の過ごし方などを総合的に楽しんでもらうというコンセプトで、チャバを設立。ショップが移転した土地の木を切ることなく、自然と調和したクラブハウスを設計。プティックのようなスペース、木漏れ日の心地よい中庭、使い勝手のよい器材洗い場、ハンモックなどがある癒しの2階スペースなど。この中庭では、タイ風 BBQ のムーカパーティーなども行われる。





バンザイ号で毎日、 素敵ポイントを巡る。

Thailand TAO

タイ・タオ島

タオ島では、最大のデイトリップポートであるバンザイ号で、午前2ダイブ、午後も2ダイブ、さらにリクエストベースでナイトダイブが可能で、最大1日5ダイブができる。ナイトダイビングの人気はトオアカクマノミのハッチアウト観察。またビーチエントリーでのオランハゼの求愛ディスプレイなどダイビングスタイルは様々。またセイルロックへの1dayトリップは、タオ島からバンザイ号で2時間移動するために、朝食、昼食はポートの上で食べる。バンザイ号は、ダイビングのためのポートで、1階は広いダイビングスペース、2階は風が通る快適な寛ぎスペース、2階の船首には、日光浴を楽しめるスペースがある。セイルロックであり、その他の近場のポイントであり、バンザイ号が帰港するのは午後4時~5時くらい、それからシャワーを浴びて、街に繰り出すことができる。



サイリービーチの街に繰り出して、 旨いご飯を食べる!

タイ料理・トン

ビックブルーからもとても近いお店。リーズナブルに本格タイ料理を楽しむことができるお店。2階に座敷のような空間もあるので、みんなでワイワイと食べに行くのも楽しい。



韓国焼き肉

サイリービレッジに位置する韓国人オーナーによる本格的韓国料理。プルコギと石焼ビビンバ、お手製キムチなどが人気。韓国焼酎やマッコリも楽しむことができる。



ヒポ

サイリービーチに位置する。お洒落な雰囲気、洋食、各種ドリンクも楽しむことができる。お薦めはグリルで、ファレストーキー、T ボーンステーキなども人気。



ファランゴ

サイリービーチに位置するタオ島で一番古く、一番人気のイタリアン。自家製窯焼きピザには、定評がある。味、雰囲気、立地条件の良さなど三拍子が揃っている。

タオ島でお薦めのリゾート

サンスマイルロッジ

ゲストハウスの部類になる宿泊施設。リーズナブルな価格だけど、設備、サービスが充実している。セーフティボックス、ドライヤー、ビーチタオル。(高級リゾートにはあるが、通常、ビーチタオルなどの用意はない) ビッグブルーから歩いて1分。4階建て。部屋は広く荷物の多いダイバーには便利。



サムイで前後1泊 するための方に お薦めのリゾート

サムイ・ファーストハウス

中心街から少し外れた場所にあり、静かな環境に位置する。少し不便に感じるかもしれないが、コンビニやレストランなどは周囲にあり、最低限は揃っているため、1泊の場合などはリーズナブルな価格でお薦め。外観は船の形をし、ユニークな一面も。隣接するチャウエンノイビーチには、ホテルのプライベートエリアを持つ。



シンプルライフリゾート

サイリービーチの中心部にあり、立地条件が大変良い(セブンイレブンも近い)。客室内も広く、デザインされた感じでリゾート感に溢れる。中庭のプールには浅いプールもあるのでファミリー向け。スタッフの対応も良いとの定評。



シックスセンス・サムイ

パンガー湾を一望できるロケーションにあるナチュラル指向の5スターリゾート。周囲に自然以外のなにもなく、リゾート内で全て楽しめるコンセプトとなっている。広い敷地内には、プライベート感を重視したコテージが点在する。客室や併設のプールからは、海が広く見え、開放感が抜群。また、バトラー制で、どのバンガローでも専属シェフがBBQをしてくれる。レストランやバー、インフィニティプールなどもラグジュアリー感がある。



コタオカバナリゾート

サイリービーチから離れた環境にある自然派リゾート。客室がそれぞれ個性的で、とても素敵。オーナーのこだわりで常にリノベーションをし、ファブリックなどにもこだわりがある。コンセプトとしては、休日をポーッと過ごすで、部屋にwifiはない。崖沿いのレストランも本当に素敵で、カップルにお薦めのリゾート。

